

## 30年11月分

## 問屋、仲買・小売商の先行き動向調査

## 1. 調査実施期間

平成30年 11月1日～ 30年11月10日

## 2. 調査実施方法

東京、大阪、名古屋の問屋、仲買・小売商に対し、アンケート調査票を送受することにより実施した。  
11月分の回答企業数は42社である。

## 3. 判断指数の算出方法

各調査項目について以下の方法でウェイト・ディフュージョン・インデックスを算出した。

Weight.D.I.(ウェイト・ディフュージョン・インデックス)={「増加」の評価を行った回答の割合}×2+{「やや増加」の評価を行った回答の割合}-{「減少」の評価を行った回答の割合}×2-{「やや減少」の評価を行った回答の割合}÷2  
したがって、この割合がゼロの場合はその増加と減少が等しいことを示し、プラスになるほど増加が多く、逆にマイナスになるほど減少が多いことを示す。

## 4. 調査結果の概要

## (1) 荷動き動向 Weight. D. I.

品目		30/11月	12月	31/1月
仕入動向	国産材	13.6	△ 4.5	△ 6.5
	外材	3.8	△ 10.3	△ 2.7
販売動向	国産材	16.7	△ 6.1	△ 1.6
	外材	6.4	△ 7.7	△ 8.1
在庫動向	国産材	1.6	△ 9.4	△ 10.0
	外材	△ 5.3	△ 7.9	△ 6.9

・国産材、外材の仕入動向は11月の増加から12月、1月は減少に。

・国産材、外材の販売動向は11月の増加から12月、1月は減少に。

・国産材の在庫動向は11月の増加から12月、1月は減少に。外材は3カ月連続減少。

## (2) 価格動向 Weight. D. I.

品目	30/11月	12月	31/1月
スギ正角(グリーン)	4.2	4.2	2.3
スギ正角(KD)	11.5	7.7	0.0
ヒノキ正角	11.1	3.7	△ 2.0
ヒノキ土台角	9.6	1.9	△ 2.1
米ツガ正角(現地挽)	2.4	2.4	2.4
米ツガ防腐土台角	11.4	2.3	2.3
米ツガ割物(現地挽)	4.5	2.3	2.4
米マツ平角	4.0	2.0	2.1
北洋アカマツタルキ(現地挽)	17.7	5.0	1.8
ホワイトウッド集成管柱	6.0	2.0	0.0
レッドウッド集成平角	△ 6.5	0.0	△ 2.3
型枠合板(輸入)	18.0	10.0	8.7
針葉樹構造用合板	△ 2.2	△ 4.3	△ 2.3
針葉樹構造用合板(厚物)	△ 4.3	△ 4.3	△ 4.5

・スギ正角はグリーン、KDとも保合。  
・ヒノキは正角、土台角とも保合。  
・米ツガ正角(現地挽)、割物(現地挽)とも保合。  
・米マツ平角は保合。  
・北洋アカマツタルキ(現地挽)は強含み。  
・ホワイトウッド集成管柱は保合。  
・レッドウッド集成平角は弱保合。  
・型枠合板(輸入)強保合。  
・針葉樹構造用合板は厚物を含め弱保合。